

戰史資料提出之件

昭和二十年十二月十九日

海上挺進基地第四大隊 (沖繩縣宮古島)

隊長 陸軍大尉 西江 重樹 (西)

關東上陸地支局復員課 中尉

首題ノ件ニ関シ左記ノ通り報告候也

左記

一 編成裝備關係

1. 自己部隊ノ編成人員及兵器彈藥

編成

裝備

本部

指揮班 (將校以下六九名)
通信班
暗号班

無線三有線五

指揮班 (將校以下二二名)

第一勤務中隊

第一少隊 (六五名)

各小銃一挺 彈藥一三〇発

(將校以下三三二名)

第二少隊 (六五名)

其他若干ノ土工具火具

第三少隊 (八〇名)

第二勤務中隊 (全右)

第三勤務中隊 (全右)

整備中隊 (將校以下六五名)

鍛工具、輕修理車、其他諸資材

2. 職員表

隊長 陸軍大尉 西江 重樹

指揮班長 中尉 小宮 健二

通信班長 中尉 廣瀬 安雄

班長 中尉 山本 豊

班長 少尉 増田 弘毅

班長 少尉 炭木 二三九

班長 中尉 寺田 松太郎

班長 中尉 三枝 俊雄

隊中務勤一第	隊中務勤二第	隊中務勤三第	隊中務勤四第	隊中務勤五第	隊中務勤六第	隊中務勤七第	隊中務勤八第	隊中務勤九第	隊中務勤十第	隊中務勤十一第	隊中務勤十二第	隊中務勤十三第	隊中務勤十四第	隊中務勤十五第	隊中務勤十六第	隊中務勤十七第	隊中務勤十八第	隊中務勤十九第	隊中務勤二十第	
隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	
陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	
梶木健児	関田孝	佐藤八郎	清水孝太郎	今井好房	藤田恭順	古守賢二	橋本武雄	山本昇	綱木三男	玉井正次	八谷幸雄	関澤清風	細田孝	菊地虎雄						

人員兵器等増減関係
 3. 砲之爆ヨリ若干ノ損害アリタルモ地上戦闘ナキタメ大ナル増減ナシ
 4. 台湾人、鮮人、現地住民使役ノ関係

十

二、部隊履歴ノ概要

昭和十九年八月三十一日編成完結（於宇島）、同年九月十四日宮古島進駐、爾後同島ノ守備及海上挺進部隊ノ爲、基地設定並ニ基地業務ニ従事（昭和十九年十月十日—十二日間 南西空襲）（昭和二十年三月廿六日—六月二十日 天号作戦参加） 同年八月十四日大東亜戦争終結以後同島ニ於テ待機、同年十二月十二日宮古島撤収、同十七日浦賀到着、同二十日復員完結

三、指揮隷屬関係其ノ変遷ノ概要

宇島野戰船舶本廠長編成担任官トシテ編成完結、内地港灣出張ト共ニ沖縄本島ニ於ケル第三十二軍ノ隷下ニ編入セラレ在宮古島第二十八師團（豊部隊）ノ指揮下ニ入ラシメラル

四、作戰準備關係

1. 作戰計畫ノ概要

防禦方針

部隊本來ノ任務ハ海上挺進戰隊ノ爲メ、戰鬥準備(基地ノ設定業務)主トシテ舟艇百隻其他諸資材ノ對爆格納洞窟ノ構築、舟艇ノ整備、情報連絡、宿營、給養、補給、一般ノ警備等ニシテ地上戰鬥ハ本然ノ任務ニ非ス

本來ノ任務終了後ハ師團ノ北地區隊ノ復廊内ノ配備ニ就ク如ク命セラレリタリ

之カ爲メ師團命令ニ基キ基地概成後一々中隊ヲ以テ北地區隊内ニテ大隊分ノ陣地ヲ構築セシメ任務終了後ノ戰鬥ヲ準備スルト共ニ若シ敵直接基地正面ニ上陸スル場合ヲ顧慮シ此ノ場合ハ斷乎基地ヲ死守シテ舟艇ト運命ヲ共ニスベク準備ヲ進メタリ

之カ爲メ防禦方針トシテハ部隊ノ裝備ニ鑑ミ徹底セル肉攻、斬込、ヨリ敵ノ戰鬥ヲ擊滅シ次テ敵兵ヲ各個ニ擊殺シテ其ノ綜合戰果ノ擴大ヲ企圖ス。ホ一方ニ於テ汀線線ニ障礙物ヲ構築シカソリシヨル火炎原ヲ準備シ敵ノ水陸兩用戰車並ニ上陸用舟艇ヲ燒夷、肉攻スベク準備ス

防禦配備

一、基地附近ノ配備

基地ノ防禦ヲ主トシ一部汀線ニ配備ヲ濃密ニス之カ爲メ各中隊ハ舟艇格納洞窟ヲ中心トシテ據点ニ陣地ヲ占領セシムルヲ主トシテ各中隊間ノ間隙閉塞ニ一部ヲ充當スルト共ニ水際部隊ノ配置ニ部隊ハ一個ノ據点ヲ形成シ得ル如クス

二、北地區隊内ノ配備

概テ歩兵大隊ニ據據シテ配備ス 詳細略ス

2. 陣地ノ狀況

(1) 起工時期 昭和十九年九月十五日

所要人員 部隊全員及地方側(平良町主トシテ荷取方面)ヨリ

報皇隊約四〇名(毎日平均)ノ協力ヲ得

使用資材ハ十字鋏、円匙、鋸、鑿等トシ不足分ハ整備
中隊ニ於テ製作補充セリ、又岩盤爆破ノタメ作業最盛期
ニ於テハ毎日平均約六噸ノ黄色葉、又「ガイナマイト」及附属
火具ヲ使用セリ

(四)完成時期、當初十月末日完成ヲ目途トシテ實施セルモ敵ノ
行動遲延ヲ來スニ從ヒ逐時、第一期、第二期、第三期作業ニ移行シ
且又挺進基地陣地ヲ逐時北方ニ擴張シ第一勤務中隊ノ延伸
洞窟ト爲セル爲メ、全般トシテ概成セルハ昭和二十年二月下旬ナリ
爾後天号作戦開始ニ伴ヒ更ニ之ガ確保及強度ノ増加ニ力
タリ

強度ハ各洞窟ハ平均百噸爆彈ニ堪エ得ル程度トス
(ハ)敵攻喪ニヨル破壊、補修狀況

空襲ニ依リ破壊サレタル洞窟三箇……………爾後拋棄ス
(ニ)港灣施設

海上挺進基地トシテ攻撃艇、百隻ノ格納洞窟ノ掘鑿ヲ主トシ
之ニ附帶スル交通施設及泛水引揚施設ヲ構築セリ、港灣浚
渫作業ハ實施セズ

格納洞窟ハ最初艇一隻用主トセルモ概成期ニ於テハ第一、二、三
勤中隊ニ於テ担當サスル基地々形ノ特徴ニ鑑ミテ二隻用、四
隻用、或ハ直列連隻用等相當多様ヲ示スニ至レリ、洞窟ハ
松丸木ヲ以テ架構シ水平掘開ヲ主トシ一部傾斜進入後水平
掘設トス

交通施設ハ「トローリール」ヲ主トシ、洞窟進入後部ハ現地
材「モルタル」ヲ以テ滑路ヲ形成セリ

3 作戦準備ニ関スル主要ナル命令ノ内容
沖繩失陥以後同地ニ於ケル米軍艦艇ノ一部宮古島方面ニ向ケ南下
中ト、友軍飛行機情報ニ基キ師團團司令、部ヨリ速カニ甲号
戦備ニ移行シ得ル如ク準備ヲ完遂スベシトノ命令ヲ受ケ泛水及

攻撃準備ノシメ命令ヲ下達シ外特記スベキモノナシ

(一般ニ陣地構築作業ノ爲メ命令ヲ主トス)

4. 軍需品ノ集積状況、其他

師團ノ計畫ニ依ル

5. 訓練ノ状況

之水訓練 陣地構築作業ノ傍、攻専艇ノ之水方式ヲ研究制定シ

先ニ幹部教育ニ依リ次ニ一般訓練トシテ習熟完成ヲ

期シタリ(昭和十九年十月—二十年二月)

内攻訓練

敵ノ進攻近キヲ予察スルニ前記訓練ニ係行シテ実施

挺身切込訓練 之夫々前後二回ノ查閲ヲ実施シテ其成果ヲ検討セリ

對空挺身訓練 作戰末期ニ於テ空挺部隊ノ來襲ヲ想セラルハ

至リタル時期ニ全員ニ對シテ実施シ 特ニ約一週間ハ

早朝攻専ニ備ヘ非常配備ヲ兼ネタル綜合的訓

練ヲ実施セリ

※其他ハ勤務中隊、通信班、整備中隊ニ於テ自隊教育(訓練)

トス

五、戦闘状況

1. 参加セル主要作戰ノ概要

天号作戰(昭和二十年三月二十六日—六月二十日)ニ参加セルモ直接地上

又ハ海上戦闘ヲ実施セス

天号作戰ノ記述ハ省略ス

2. 機動部隊來襲状況

(一)昭和十九年十月十日—十二日 南西空襲

敵ノ沖繩作戰開始ニ先立テ第一次機動部隊ノ來襲ニシテ艦載機延

約三〇〇機ヲ以テ宮古島、平良港在泊艦艇ヲ攻撃セリ

(二)天号作戰間

1. 敵ノ沖繩作戰開始セルヤ有カナル機動部隊ノ一部(空母約四隻程

度基幹)ハ常ニ宮古島、石垣島附近ニ游弋シ連日延約一二〇機程

度ヲ以テ宮古島、金島ヲ制圧シ我部隊陣地ニ對シテモ執拗ナル爆撃

銃專ヲ反覆シ數少クテナル損害ヲ加ヘタリ

只別ニ印度洋方面ヨリ進入セル英國機動部隊ノ一部(空母四程度
基幹)ハ右期間中ノ一時米機動部隊ト交替シ宮古島ニ攻專ヲ
加ヘ特ニ當隊陣地ニ對シテハ意思的攻專ヲ加ヘタルモノ、如ク相當機
列ナルモノアリタリ 尚本機動部隊ハ宮古島南方海上ニ現
在シ艦砲射專一回ヲ加ヘタリ

3 敵機ノ未襲狀況

(一) 南西空襲間

一回ノ未襲機數三〇―四〇機 攻專目標ハ在泊船舶ノミ

(二) 天号作戰間

一回ノ未襲機數ハ八乃至四〇機ニシテ緩慢ナル時ハ一日三回程度熾
烈ナル時ハ天明ヨリ黄昏迄終日、上空ヲ亂舞シ反覆執拗ニ攻
專ス 夜間ハ比較的緩慢ナリ

攻專目標ハ主トシテ飛行場ニシテ其他ハ沿岸陣地、主要村落等ナリ
機種ハ「フクラマシ」(ヘルキヤット)「コルセア」(以下下)「アヴェンジャ

(B)「ラズト」陸上機ハ殆ト現出セス 三月二十六日ニ始マリ沖繩戰

闘終了ニ至ル約三ヶ月間文字通り殆ト一日ノ休止モナク連日未襲
セリ コノ期間中一時(約一週間程度)米ニ交替セル英國機動

部隊ヨリノ未襲機ハ「スポットファイヤー」ニシテ機數ハ一回十二機
程度、一日通常之同程度未襲セリ

4. 敵機ノ損害

當隊ニ於テ喫ハタルモノ無し

5. 落下時着陸下ニ對スル処置

6. 敵ノ俘虜數

該當事項ナシ

六、給養衛生

給養(終戦時迄)ハ円滑ニ実施セシ 本島ニ對スル補給ハ南西空襲以
後殆ト杜絶セルモ適時現地物資ノ利用等ニ依リ大ナル障礙ナク遂行
シ得タリ

衛生狀況 一、當初ハ比較的良好ナリシモ天号作戰以後ニ於テ當隊ノ一部

ニ「マラヤ」ノ侵淫ヲ見 將兵ノ大部罹患スルト共ニケカラサル犠牲者
ヲ出セリ 又駐留後期ニ於テ疥癬性ノ皮膚病稍々蔓延セリ

七、終戦ヨリ歸還迄ノ行動ノ概要

終戦ヨリ宮古島山撤退迄――原位置ニ在リテ自活ノタメ必要ナル作業ヲ
爲ス（主トシテ甘藷及野菜ノ栽培、又漁撈等）

尚終戦直後米軍ノ指令ニ基キ豊部隊本部ノ命令ニ依リ兵器奉還
業務ヲ担当實施セリ

昭和二十年十二月十二日 米船「チャールズ・ヘンリー」ヨリ早レニ依リ宮古島
出發、同十七日浦賀上陸